

# 利尻町立博物館

Rishiri Town Museum

～自然・海、人間の調和～

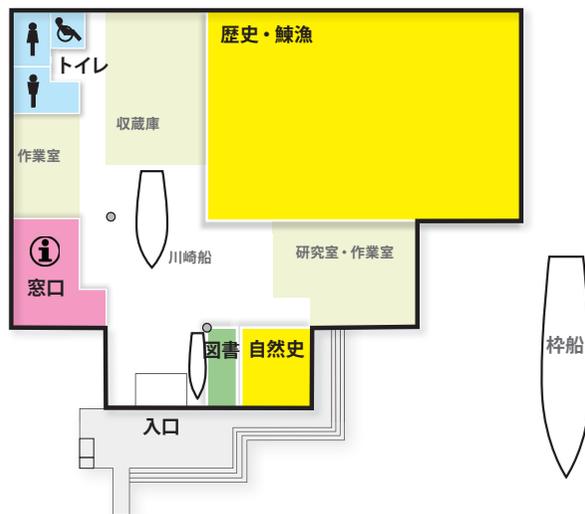
利尻町立博物館は、利尻島に関する資料を収集、保存し、研究活動にもとづいた普及・教育活動を展開することを目的としています。資料の保管、日常的な調査研究の他、各種展示、講習会や観察会、研究紀要の発刊などを行っています。



## 館内案内

利尻町立博物館は、「自然・海、人間の調和」をテーマに、利尻島の歴史や自然などに関する資料の展示をしています。常設展示は1階フロアのみで、見学には約20分ほどかかります。

資料保全のため、館内への動物、危険物の持ち込みのほか、施設内での喫煙はご遠慮いただきますようお願い申し上げます。



## レファレンスサービス

ロビーや閲覧コーナーでは、当館の収集した利尻に関する資料の一部を一般公開しております。

非公開資料や標本、新しい情報などの問い合わせなどにも随時スタッフが対応いたしますので、お気軽にご相談ください。

## 窓口販売

利尻に関する文献などを窓口で販売しています。当館紀要「利尻研究」の他、一般書店には並ばないようなものも扱っていますので、どうぞご利用ください。

## 開館時間

午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)

## 休館日

月曜日、祝日の翌日、年末年始

\*そのほか、資料管理・展示作業や施設維持業務で臨時休館を行うことがあります。詳しくは事前にお問い合わせ願います。

## 入館料

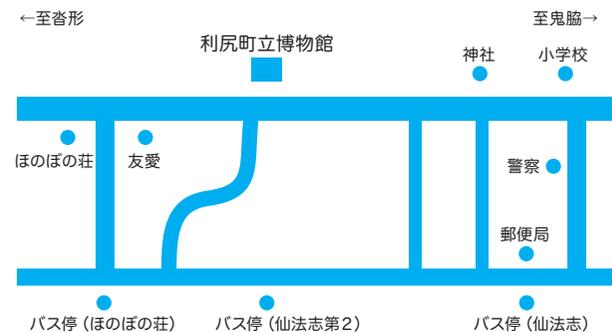
	個人	団体(20名以上)
一般	200円	160円
高校生以下	無料	無料

\*教員の引率により教育活動として入館する場合、見学予定日の1週間前までに所定の入館料免除申請書を提出し承認を受けてください。

## 冬期間のお願い

11-4月の展示室内はたいへん寒くなります。どうか暖かい服装でご来館いただきますようお願いいたします。

## 案内図



利尻町立博物館

〒097-0311 北海道利尻郡利尻町仙法志字本町136

Tel. 0163-85-1411, Fax 0163-85-1282

rishiritownmuseum@town.rishiri.hokkaido.jp

## 展示案内

### 川崎船

明治から昭和まで、主に冬のタラ漁などに使用された木造人力船が川崎船でした。博物館のエントランスには実物



の3分の2ほどの模型が設置され、厳しくも豊かな最北の海にこぎ出す島の漁師の心意気が、その表情から伝わってきます。

### 利尻の形成史

現在私たちが見ている利尻島の風景は、主に約20万年前から1万年前にかけての利尻火山の活動によって形成されました。特徴的な火山噴出物や溶岩流の展示とともに、どのようにしてこの島が形成されてきたのかを最新の研究成果とともにご紹介いたします。

### 多様な生物たち

利尻島の科学的な調査は明治時代から既に始まっており、当時から利尻は注目された島であったことがわかります。その後も植物や昆虫、鳥類、哺乳類など、様々な分野の研究者がこの島を訪れ、これまで



時から利尻は注目された島であったことがわかります。その後も植物や昆虫、鳥類、哺乳類など、様々な分野の研究者がこの島を訪れ、これまで

## 資料・標本



利尻に関連した漁具、民具、生活用品、映像資料のほか、行政文書、新聞、論文・報告、書籍、パンフレットなどの文献資料の収集および保管をしています。標本では、島内で採集された生物を中心に、新種記載で使われたパラタイプを含む約5,000点を所蔵し、鳥獣寄生物など特色あるコレクションも保管されています。

におよそ3,200種の記録があります。しかし、近年でも新種や新分布などの発見があり、まだまだその全貌解明には時間がかかりそうです。自然史コーナーでは、本島で実際に得られた様々な生物の標本や写真を使い、固有種のほか、日頃その存在にさえ気づかないような生物種についても学んでいただけます。

### 先人たち

利尻島には多くの遺跡があり、旧石器時代からヒトがいたことがわかっています。考古学コーナーでは、主に縄文～オホーツク文化期の亦稚貝塚および種屯内貝塚から出土した遺物、約100点を展示しています。これらの中には、当時の人たちが想像以上に各地と交流があったことを示す土器も含まれるほか、動物意匠など興味深い装飾を見る事ができます。



### 開国の波

幕末の激動の時代。日本をゆるがす開国の波は、この最北の島にも及びます。一つはアメリカ人青年ラナルド・マクドナルドの利尻島上陸、そして、もう一つはロシア帝国の脅威に

## 指定文化財



博物館には、亦稚貝塚から出土した北海道指定文化財である貼付文土器1点、海獣線刻文土器1点、トナカイ角製品2点のほか、利尻町指定文化財である土師器、舟形土製品などの4点が保管されています。トナカイ角製品にはクジラなどの装飾がすまなく施され、当時のオホーツク文化人と海との結びつきを強く感じさせられます。

対しての北方警備です。本町には警備中に亡くなった会津藩士の墓(史跡・町指定文化財)があるほか、秋田藩によって描かれた利尻島の絵図が当館にて保管されています。

### ニシンの島

明治から昭和にかけて、この島にニシンを追い求めて多くの人が渡り、一攫千金の夢を描きました。常設展示の中央部には出稼ぎに来ていた若い衆と鯨番屋を再現し、実際に鯨漁で使われた漁具などを展示しています。冷蔵技術が発達していなかった当時、一時期に大量の漁獲がある鯨漁では、独特の作業工程と道具の工夫がされてきました。



### 最後の舟

鯨漁で使われた「桡舟」の実物資料を屋外保管しており、本船は利尻島で最後に残ったニシン舟と考えられます。5～9月までは自由に見学ができますので、当時の活気にあふれる様子を、ぜひ実物の舟を触りながら想像してみてください。



## コレクション・研究紀要



比較的まとまった点数の寄贈資料については、当館では個別のコレクションとして保管管理を行い、これまでに旧鬼脇村役場や、佐藤武雄氏、工藤松太郎氏、関正氏などの個人コレクションを収蔵しています。研究活動については、毎年、紀要「利尻研究」を発刊し、利尻や周辺地域などの最新の知見を記録することに努めています。